

# 病院・医療等対策特別委員会

## ▶ 特別委員会の協議経過

### ■ 第1回特別委員会

- 1) 日時 平成28年6月14日(火)
- 2) 内容 中津川市公立病院機能検討委員会中間報告について
- 3) 報告事項

●平成27年12月に公立病院機能検討委員会を立ち上げ、今後の病院のあり方について検討してきたので、その状況を中間報告させていただく。

●病院経営は非常に厳しい、一刻も早く今後のあり方を示す必要がある。

●医療情勢 国の課題 年金、福祉など社会保障費の増加

●中津川市公立病院機能検討委員会設立(平成27年12月)の経緯

地域医療構想を踏まえた「新公立病院改革プラン」の策定のため、経営の健全化(効率化)、再編・ネットワーク化など両病院の役割の見直しと明確化に向け、これまで以上に踏み込んだ協議が必要となった。外部委員として恵那医師会長、恵那保健所長。

●現状の課題

#### 1.病床数

- ・平成32年度における2病院合計の一日入院患者数の推計値は351人で、現状の599床のままでは過剰。
- ・東濃圏域では急性期病床の需要が減少し、回復期病床の需要が大きく伸びると想定されており、急性病床の集約と回復期病床の確保が地域課題。
- ・上記を踏まえ、2病院が備えるべき病床機能及び病床数を再考する必要がある。

#### 2.設備投資

- ・平成32年度までの設備投資に係る資金需要は市全体にとって重い負担となっている。

#### 3.資金について

- ・坂下病院は、平成27年度に資金不足に陥り、平成28年度も資金不足の見込み。現状の規模及び機能のままでは、毎年資金不足が発生する状況。
- ・2病院合計でも平成29年度には資金不足が想定されることから、現在の投資計画等を含め、2病院のあり方につき、集約を前提として見直す必要がある。

#### 4.医師看護師の確保について

- ・両病院とも確保に努めているが、必要数を確保することは厳しい状況にある。
- ・坂下病院においては、医師の減少が医療機能の制約に直結する段階にあり、中津川市内の医療機能の安定化を図る上でも医療提供体制を見直す必要がある。
- ・坂下病院では、平成28年8月に外科医1名、内科医1名が退職予定で、常勤医8

名となる見込み。

### 5.国の医療政策への対応

- ・岐阜県地域医療構想（ガイドライン）について・・・県が平成 27 年度末を目途に策定

＞急性期病床を削減し、回復期病床への転換、慢性期病床を削減し、在宅医療を強化

＞病床削減を目的としている。

岐阜県の方針 3,322 床を削減（14,978 床へ）、東濃圏域 689 床削減（2,057 床へ）

- ・新公立病院改革プランの策定

＞平成 28 年度中に策定 計画期間は平成 32 年度まで。

＞医師を含む必要なスタッフを適切に配置でき、経営の効率化を図り、持続可能な病院経営を目指す。収支の黒字化を目指した計画が必要

＞プランの内容

- ①地域医療構想を踏まえた役割の明確化（新規追加内容）
- ②経営の効率化
- ③再編・ネットワーク化
- ④経営形態の見直し

### ●経営改善シミュレーション

特徴	シナリオ①	シナリオ②	シナリオ③	シナリオ④
	1 病院体制	坂下病院の診療所化	救急・急性期の集約	急性期の維持
	・財政負担の軽減を最優先	・財政負担の軽減を考慮しつつも、中津川市の医療介護状況を考慮	・医師配置基準を満たす法的な側面で必要な医師数の確保が課題	・現状の医師数では医師配置基準を満たす事が出来るか検討が必要
<b>坂下病院</b>				
<b>入院機能</b> ・急性期病床149床 内) 休床39床 ・療養病床50床	・ <b>廃止</b>	・ <b>廃止</b>	・急性期病床の廃止 ・回復期病床を設置 (60床)	・急性期病床を維持 (149床⇒50床) ・回復期病床を設置 (50床)
<b>外来機能</b>	・ <b>廃止</b>	・内科、透析部門のみ	・内科、透析部門のみ	・現状維持
<b>その他機能</b>		・老人保健施設を移転 (80床)	・老人保健施設を移転 (80床)	・老人保健施設を移転 (80床)
<b>中津川市民病院</b>				
<b>入院機能</b> ・急性期病床320床 内) 休床87床 ・回復期病床40床	・集約 ・回復期病床の増床	・集約 ・回復期病床の増床	・急性期病床を集約 ・高度急性期病床を新設 (35床)	・現状維持
<b>外来機能</b>	・集約	・内科、透析部門以外の外来機能を集約	・内科、透析部門以外の外来機能を集約	・現状維持

●中津川市公立病院機能検討委員会中間報告のまとめ

- ・新公立病院改革プランは、5年後（平成32年）のあるべき姿を目標として作成する。
- ・各年度のロードマップを作成し、計画的に実行する。
- ・坂下老人保健施設を坂下病院に移設する。
- ・大多数の意見としてシナリオ②の方向であるが、反対とする少数意見も合わせて市長に報告する。
- ・岐阜県が策定する地域医療構想の数値は大変重要であると認識しておく。今後、国が強制力を持って進めることが予想される。

4) 主な質疑

Q：地域住民の意向を聞かずに検討委員会だけで進んできたのは、何か理由があったのか。

A：今後は、6月、7月で委員会としての病床の再編の大きな方向性が決まれば、その後、最終的に市長の判断の下に、それに基づいた各年度のロードマップを新公立病院改革プランの中で反映させていくので、それが固まった段階ではパブリックコメント（意見公募）も考えていく予定。

Q：医師が足りないけれど医師を確保できないことがどれくらい厳しいのか、少なくとも市民が冷静に判断できるようにもう少し現状を市民に話していただき、過去のことも踏まえて進めてほしい。

A：市民の皆様にご理解いただけるようにしっかり公開していきたい。

Q：民間への売却というシナリオが示されても不思議ではないと思うが。

A：今後の人口減少等を考えると、病床は間違いなく過剰な状況となっているので、もう少し整理した中で将来的に坂下病院をどういう形にするかによって、そこで選択肢が出てくるかもしれないが、今のままで民間に譲渡すると同じような機能の病院で競合することになってしまうので、市民病院としての運営は依然厳しい状況が続くことになるので、そこをまず整理することが優先だ。

Q：坂下病院については合併する時点で坂下町と中津川市がどういう約束をされて合併したのか確認したい。

A：今ここにいる職員が当時の経緯をまだ分かっていない部分があるので、一度確認させていただく。

Q：旧坂下町内で地区座談会をやって欲しい。

A：きるだけ早い段階で地域の説明会を開催したい。

Q：坂下地域の方に限った話ではなく、中津川市民全員にとっての重大な問題ですので、一地域でなく、他の地域でも説明会を開催して欲しい。

A：ご指摘のとおりだと思うので、しっかり対応していく。

Q：坂下病院が無くなるということはとんでもないこと。そこをどうしていくのかがこれからの課題だと思うが、年内若しくは9月末までに結論づけていく作業は大変だと思うが大丈夫か。

A：検討委員会の中では坂下病院を廃止するシナリオはあまり賛成していない。坂下病院の機能も残すが、地域医療構想で市民病院と坂下病院両方の病床数を減らすようきている。今よりは必然的にどちらも今より縮小傾向になるのはやむを得ない。それを無視して運営した場合には当然ペナルティが課されるので、診療報酬が沢山来ない状況となり、経営できないという最悪の状況に陥る可能性がある。検討委員会の中でよく協議をさせていただいている。

Q：数値を見て大変厳しい状況になっているという認識を新たにした。このシナリオの中に公立ではなくて、独立行政法人とか色々な方法論、選択肢があると思う。地域医療にとって大変重要な病院なので、今後5年間と言わず、将来の少子高齢化で人口が5万人、6万人になる時代を見据えて、先進事例も参考にしながら病院のあり方を検討すべきと思うが。

A：民営化等についても併せて検討させていただく。ただ問題は、起債残高が40億円以上あり、それを解決しなければならない。もう一つ大きな点が、地域医療構想の中で東濃圏域のベッド数を減らすようきているので、その場合に両方の経営を圧迫するので、その兼ね合いも含めて併せて検討させていただく。